



安否確認や起震車体験

伊賀と名張 震災想定し防災訓練

伊賀市柘植町と名張市桔梗が丘七番町で四日、震災を想定した合同防災訓練があり、災害時に備えた。

伊賀市は柘植地域まちづくり協議会の主催。十二地区の住民約千五百人が参加した。防災無線で震度7の

地震発生を伝え、住民たちは組単位で安否確認し、各区のセンターに避難した。区では消火ホースや消火栓の位置確認、防災倉庫内の発電機やチェンソーなどを点検した。

所属する区で自動体外式除細動器(AE



備蓄用品の入った「白い小箱」

D)の使い方を学んだ



消火ホースと消火栓の位置確認をする住民たち。伊賀市柘植町で

大道康代さん(まじは)など勉強になった。い「人工呼吸や胸部圧迫」と話した。住民の防災力を高め



白煙が満ちたテントを通り抜けた参加者。名張市桔梗が丘七番町で

るため協議会は、七年乗ったり、白煙が満ち間保存できる水のペットボトル二本や玄米が一袋など七種類の備蓄品が入った「白い小箱」(一セット千五百円)の購入を地域住民を対象に募っている。希望者には十二月初めに配布する。

起震車で、震度6弱と6強を体感した会社員の森山亨さん(あきは)は「心構えがしっかりとできるので貴重な体験」と振り返った。訓練は桔梗が丘第二ブロック区長会(四番町区、六番町区、七番町一区、七番町二区、八番町一区)の主催。県防災課や名張消防署などが協力した。

(中川翔太)